

教育課程等の概要

(建築学部 建築学科 建築システムコース)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
地域・文化・社会	表象文化論	1前		2		○									兼1
	現代社会論	1前		2		○									兼1
	現代メディア論	2前		2		○									兼1
	環境問題とエコロジー	2前		2		○									兼1
	市民と法	2後		2		○									兼1
	暮らしと心理学	2後		2		○									兼1
	科学思想史	2後		2		○									兼1
	東北文化史	2後		2		○									兼1
	市民と政治	3前		2		○									兼1
	産業社会と心理学	3前		2		○									兼1
	産業社会と倫理	3前		2		○									兼1
	情報社会の経済	3後		2		○									兼1
	日本国憲法	3後		2		○									兼1
	現代の哲学	4前		2		○									兼1
	ライフ・キャリアデザイン論Ⅰ	2前		2		○									兼1
	ライフ・キャリアデザイン論Ⅱ	3前		2		○									兼1
	職業指導 (工業)	3前		2		○									兼2 兼中・オムニバス
	情報社会とモラル	3前		2		○									兼1
	情報と職業	3後		2		○									兼1
	工業概論	3前		2		○									兼1
	フランスの文化と言葉	1後		2		○									兼1
ドイツの文化と言葉	1後		2		○									兼1	
韓国の文化と言葉	1後		2		○									兼1	
中国の文化と言葉	1後		2		○									兼1	
言葉と表現	スタディスキルⅠ	1前	1				○								兼1
	スタディスキルⅡ	1後	1				○								兼1
	プレゼンテーション	1後		1			○								兼1
	ビジネスマナー	3後		1			○								兼1
	英語ⅠA	1前	1				○								兼2
	英語ⅠB	1後	1				○								兼2
	英語ⅡA	2前	1				○								兼4
	英語ⅡB	2後	1				○								兼3
	英会話A	1前		1			○								兼1
	英会話B	1後		1			○								兼1
資格英語A	2前		1			○								兼1	
資格英語B	2後		1			○								兼1	
の心 健と 康体	健康・運動科学実習Ⅰ	1前		1				○							兼6
	健康・運動科学実習Ⅱ	1後		1				○							兼5
	スポーツ科学実習	2前		1				○							兼7
学際	特別課外活動Ⅰ	1前～4後		1				○							あわせて4単位 までを進級および卒業に要する 単位として算入 できる
	特別課外活動Ⅱ	1前～4後		1				○							
	特別課外活動Ⅲ	1前～4後		2				○							
	特別課外活動Ⅳ	1前～4後		2				○							
	他大学等教養科目群	1後～4前		4		○									
小計 (44科目)		—	6	67	0		—		0	0	0	0	0	0	兼40

専門 教育 科目	建築学の数学	1前	2			○								兼1	
	建築学の物理	1前	2			○								兼1	
	建築入門	1前	2			○		6	2						オムニバス
	建築表現	1前	1				○		1			1			共同
	建築設計Ⅰ	1前	2				○	1		1	1				
	建築材料Ⅰ	1前	2			○		1							
	建築概論	1前	2			○		2	1	2					オムニバス
	建築環境工学概論	1後	2			○		1	1	1					オムニバス
	建築CAD	1後	2				○				3				
	建築計画Ⅰ	1後	2			○			1						
	ヨーロッパ建築史	1後	2			○					1				共同
	建築造形	1後	1				○		1			1			
	建築設計Ⅱ	1後	2				○		2			1			兼5
	建築材料Ⅱ	1後	2			○		1							
	骨組の力学Ⅰ	1後	2			○		1							
	骨組の力学Ⅰ演習	1後	1				○								兼2
	ランドスケープデザイン	2前	1				○			1			1		共同
	建築設計Ⅲ	2前	2				○			2					兼5
	建築計画Ⅱ	2前	2			○			1						
	日本建築史	2前	2			○					1				
	建築材料実験Ⅰ	2前	1					○	2						共同
	熱・空気環境	2前	2			○			1						
	骨組の力学Ⅱ	2前	2			○			1						
	骨組の力学Ⅱ演習	2前	1				○								兼2
	インテリアデザイン	2前		2		○									兼1
	建築設計Ⅳ	2後	2				○		1	1					兼5
	建築計画Ⅲ	2後	2			○			1						
	建築材料実験Ⅱ	2後	1					○	2						共同
	音・光環境	2後	2			○					1				
	建築法規及び同演習	2後	3			○	※		1						※演習
	木質構造	2後		2		○						1			
	建築専門CADとBIM	2後		1			○		1	1	1				集中
	骨組の力学Ⅲ	2後		2		○			1						
	住宅生産	3前	2			○						1			
	鉄筋コンクリート構造	3前	2			○			1						
	鉄筋コンクリート構造演習	3前	1				○		1						
	鉄骨構造	3前	2			○			1						
	鉄骨構造演習	3前	1				○								兼2
	建築設備システム及び同演習	3前	3			○	※			1					※演習
	建築プロフェッショナル論	3前	2			○			2						オムニバス
都市計画	3前	2			○				1						
建築設計Ⅴ	3前		2			○		2						兼5	
建築計画Ⅳ	3前		2		○			1							
近代建築史	3前		2		○				1						
建築専門表現	3前		1			○		1	1					集中	
建築経済	3後	2			○									兼1	
建築学研修Ⅰ	3後	2				○		8	4	4				※研修	
地域空間計画	3後		2		○				1						
建築生産	3後	2			○					1					
建築基礎構造	3後		2		○			1							
都市環境	3後		2		○			1	1	1				オムニバス	
建築設計Ⅵ	3後		3			○		2	3	2	1				
耐震設計法	3後		2		○			1							
建築学研修Ⅱ	4前	2				○		8	4	4				※研修	
建築総論	4前		2		○			7	4	3				オムニバス	
災害と建築	4前		2		○			6	3		1			オムニバス	
建築設計Ⅶ	4前		3			○		2	3	2					
建築構造の設計	4前		2			○		3		1					
建築性能論	4前		2		○			1							
建築意匠	4前		2		○			1							

専門教育科目	建築学研修Ⅲ	4後	4			○		8	4	4			※研修
	建築インターンシップⅠ	2前～4前		1			○						最大2科目4単位までを進級および卒業に要する単位として算入できる(※1)
	建築インターンシップⅡ	2前～4前		1			○						最大2科目4単位までを進級および卒業に要する単位として算入できる(※1)
	建築インターンシップⅢ	2前～4前		2			○						最大2科目4単位までを進級および卒業に要する単位として算入できる(※1)
	建築インターンシップⅣ	2前～4前		2			○						最大2科目4単位までを進級および卒業に要する単位として算入できる(※1)
	建築学特別課外活動Ⅰ	1前～4後		1			○						最大2科目4単位までを進級および卒業に要する単位として算入できる(※1)
	建築学特別課外活動Ⅱ	1前～4後		2			○						最大2科目4単位までを進級および卒業に要する単位として算入できる(※1)
	建築学特別課外活動Ⅲ	1前～4後		2			○						最大2科目4単位までを進級および卒業に要する単位として算入できる(※1)
	他学科開講科目群	1後～4後		4		○							あわせて4単位までを進級および卒業に要する単位として算入できる(※1)
	他大学開講科目群	1後～4後		4		○							あわせて4単位までを進級および卒業に要する単位として算入できる(※1)
小計(70科目)	—	79	57	0	—	—	8	4	4	2	兼22	—	
合計(114科目)		—	85	124	0	—	—	8	4	4	2	兼62	—
学位又は称号	学士(建築学)		学位又は学科の分野				工学関係						
卒業要件及び履修方法							授業期間等						
教養教育科目必修6単位を含む24単位以上、専門教育科目必修79単位を含む100単位以上、合計124単位以上修得のこと。 (履修科目の上限:24単位(1 Semester)) ただし、※1の科目群の合計のうち、最大6単位までを進級および卒業に要する単位として算入できる。							1学年の学期区分			2学期			
							1学期の授業期間			15週			
							1時限の授業時間			90分			

教育課程等の概要

(建築学部 建築学科 建築デザインコース)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
地域・文化・社会	表象文化論	1前		2		○									兼1
	現代社会論	1前		2		○									兼1
	現代メディア論	2前		2		○									兼1
	環境問題とエコロジー	2前		2		○									兼1
	市民と法	2後		2		○									兼1
	暮らしと心理学	2後		2		○									兼1
	科学思想史	2後		2		○									兼1
	東北文化史	2後		2		○									兼1
	市民と政治	3前		2		○									兼1
	産業社会と心理学	3前		2		○									兼1
	産業社会と倫理	3前		2		○									兼1
	情報社会の経済	3後		2		○									兼1
	日本国憲法	3後		2		○									兼1
	現代の哲学	4前		2		○									兼1
	ライフ・キャリアデザイン論Ⅰ	2前		2		○									兼1
	ライフ・キャリアデザイン論Ⅱ	3前		2		○									兼1
	職業指導 (工業)	3前		2		○									兼2
	情報社会とモラル	3前		2		○									兼1
	情報と職業	3後		2		○									兼1
	工業概論	3前		2		○									兼1
	フランスの文化と言葉	1後		2		○									兼1
ドイツの文化と言葉	1後		2		○									兼1	
韓国の文化と言葉	1後		2		○									兼1	
中国の文化と言葉	1後		2		○									兼1	
言葉と表現	スタディスキルⅠ	1前	1				○								兼1
	スタディスキルⅡ	1後	1				○								兼1
	プレゼンテーション	1後		1			○								兼1
	ビジネスマナー	3後		1			○								兼1
	英語ⅠA	1前	1				○								兼2
	英語ⅠB	1後	1				○								兼2
	英語ⅡA	2前	1				○								兼4
	英語ⅡB	2後	1				○								兼3
	英会話A	1前		1			○								兼1
	英会話B	1後		1			○								兼1
資格英語A	2前		1			○								兼1	
資格英語B	2後		1			○								兼1	
の心 健と 康体	健康・運動科学実習Ⅰ	1前		1				○							兼6
	健康・運動科学実習Ⅱ	1後		1				○							兼5
	スポーツ科学実習	2前		1				○							兼7
学際	特別課外活動Ⅰ	1前～4後		1											あわせて4単位 までを進級および卒業に要する 単位として算入 できる
	特別課外活動Ⅱ	1前～4後		1											
	特別課外活動Ⅲ	1前～4後		2											
	特別課外活動Ⅳ	1前～4後		2											
	他大学等教養科目群	1後～4前		4											
小計 (44科目)		—	6	67	0		—		0	0	0	0	0	0	兼40

専門教育科目	建築学の数学	1前	2			○								兼1	オムニバス 共同	
	建築学の物理	1前	2			○								兼1		
	建築入門	1前	2			○			6	2						
	建築表現	1前	1				○			1			1			
	建築設計Ⅰ	1前	2				○		1		1		1			
	建築材料Ⅰ	1前	2			○			1							
	建築概論	1前	2			○			2	1	2					オムニバス
	建築環境工学概論	1後	2			○			1	1	1					オムニバス
	建築CAD	1後	2				○					3				
	建築計画Ⅰ	1後	2			○				1						
	ヨーロッパ建築史	1後	2			○						1				
	建築造形	1後	1				○			1			1		共同	
	建築設計Ⅱ	1後	2				○			2			1		兼5	
	建築材料Ⅱ	1後	2			○			1							
	骨組の力学Ⅰ	1後	2			○			1							
	骨組の力学Ⅰ演習	1後	1				○								兼2	
	ランドスケープデザイン	2前	1				○				1			1	共同	
	建築設計Ⅲ	2前	2				○				2				兼5	
	建築計画Ⅱ	2前	2			○				1						
	日本建築史	2前	2			○						1				
	建築材料実験Ⅰ	2前	1					○	2						共同	
	熱・空気環境	2前	2			○			1							
	骨組の力学Ⅱ	2前	2			○			1							
	骨組の力学Ⅱ演習	2前	1				○								兼2	
	インテリアデザイン	2前		2		○									兼1	
	建築設計Ⅳ	2後	2				○		1	1					兼5	
	建築計画Ⅲ	2後	2			○			1							
	建築材料実験Ⅱ	2後	1					○	2						共同	
	音・光環境	2後	2			○						1				
	建築法規及び同演習	2後	3			○	※		1						※演習	
	木質構造	2後		2		○						1				
	建築専門CADとBIM	2後		1			○		1	1	1				集中	
	骨組の力学Ⅲ	2後		2		○			1							
	住宅生産	3前	2			○						1				
	鉄筋コンクリート構造	3前		2		○			1						} ※1	
	鉄筋コンクリート構造演習	3前		1			○		1							
	鉄骨構造	3前		2		○			1						} ※2	
	鉄骨構造演習	3前		1			○									
	建築設備システム及び同演習	3前	3			○	※			1					※演習	
	建築プロフェッショナル論	3前	2			○			2						オムニバス	
	都市計画	3前	2			○				1						
	建築設計Ⅴ	3前	2			○			2						兼5	
建築計画Ⅳ	3前	2			○			1								
近代建築史	3前		2		○				1							
建築専門表現	3前		1			○		1	1					集中		
建築経済	3後	2			○									兼1		
建築学研修Ⅰ	3後	2				○		8	4	4				※研修		
地域空間計画	3後	2			○				1							
建築生産	3後		2		○						1					
建築基礎構造	3後		2		○			1								
都市環境	3後		2		○			1	1	1				オムニバス		
建築設計Ⅵ	3後	3				○		2	3	2	1					
耐震設計法	3後		2		○			1								
建築学研修Ⅱ	4前	2				○		8	4	4				※研修		
建築総論	4前		2		○			7	4	3				オムニバス		
災害と建築	4前		2		○			6	3		1			オムニバス		
建築設計Ⅶ	4前	3				○		2	3	2						
建築構造の設計	4前		2			○		3		1						
建築性能論	4前		2		○			1								
建築意匠	4前		2		○			1								

専門教育科目	建築学研修Ⅲ	4後	4			○		8	4	4			※研修	
	建築インターンシップⅠ	2前～4前		1		○							最大2科目4単位までを進級および卒業に要する単位として算入できる(※3)	
	建築インターンシップⅡ	2前～4前		1		○								
	建築インターンシップⅢ	2前～4前		2		○								
	建築インターンシップⅣ	2前～4前		2		○								
	建築学特別課外活動Ⅰ	1前～4後		1		○							最大2科目4単位までを進級および卒業に要する単位として算入できる(※3)	
	建築学特別課外活動Ⅱ	1前～4後		2		○								
	建築学特別課外活動Ⅲ	1前～4後		2		○								
	他学科開講科目群	1後～4後		4									あわせて4単位までを進級および卒業に要する単位として算入できる(※3)	
	他大学開講科目群	1後～4後		4										
小計(70科目)	—	77	59	0	—	—	8	4	4	2		兼22	—	
合計(114科目)		—	83	126	0	—	—	8	4	4	2		兼62	—
学位又は称号	学士(建築学)		学位又は学科の分野				工学関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等							
教養教育科目必修6単位を含む24単位以上、専門教育科目必修77単位を含む100単位以上、合計124単位以上修得のこと。 (履修科目の上限:24単位(1 Semester)) ただし、※1および※2よりどちらか一方の組合せを選択必修とする。 また、※3の科目群の合計のうち、最大6単位までを進級および卒業に要する単位として算入できる。							1学年の学期区分			2学期				
							1学期の授業期間			15週				
							1時限の授業時間			90分				

授 業 科 目 の 概 要			
（ 建築学部 建築学科 ）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教 養 教 育 科 目	表象文化論	本講義においては、諸メディア（芸術・映画・アニメ・マンガ等）で再現・表現された様々なイメージについて、その歴史的背景や文化的文脈とのかかわりも踏まえて分析、考察を行う。まず表象・文化とはどのようなものかについて確認した上で、設定した時代・テーマに関するイメージを解説し、同時に広く文化・時代状況について検討する。	
	現代社会論	日本社会は戦後の高度経済成長を通して大きく変貌を遂げてきた。本講義では、私たちが生きている現代日本社会の成り立ちや特徴を理解することを目的に、高度経済成長が私たちの生活にもたらした変化、その意味について解説する。	
	現代メディア論	我々が日々接しているメディアは、消費社会の高度化と科学技術の進展を背景に、世界中を覆い尽くし、生活になくてはならないものとなっている。本講義では、多様な意味を持つ「メディア」の20世紀以降の展開を概説し、さらにそれらが我々の社会・文化にどのような影響を与えてきたかについて考察を行う。	
	環境問題とエコロジー	産業革命以降の急速な人口増加と経済活動の拡大により、人類は大きな課題に直面している。環境問題を理解するために必要なエコロジーに関する知識を学び、環境問題について理解し、社会的な動きを見ていく。また、自然と共生する社会を築くための基盤となる考え方として、自然から与えられる恵と災害とを認識する。授業を通して、日常生活や地域社会などの身近な場面で、社会の一員として地球環境を維持していくために自らができることを考える。	
	市民と法	社会が複雑化するなか、トラブル解決の手段としての法・裁判はますます重要になっている。裁判員制度のように、市民が法・裁判にいつそう深くかかわる機会もふえてきた。本講義では、法・裁判のしくみと法的な考え方について、具体的に、根本から考える。	
	暮らしと心理学	パーソナリティ、適応、ストレスの問題等、一般心理学の基礎を知るとともに、人間行動の心理が日々の社会生活とどのように関わっているかを理解していく。とくに現代社会はストレス社会と言われて久しい。メンタルヘルスの問題を理解し、ストレス軽減のために必要な心身のストレスマネジメントの方法を考えていく。	
	科学思想史	社会の発展は自然科学によって支えられてきたが、自然科学の発展もまた社会と緊密な関係を取り結んでいる。科学との連携がいつそう重要となった現代社会の問題を考えるために、本講義では、自然科学と思想・宗教・文化との関わりを歴史的にみていくこととする。	
	東北文化史	東北地方の各地域は中央の都に対する周縁の地方として位置づけられ、地方・自然・人情・懐古などのイメージで表現されてきた。この授業では、アニメなどのサブカルチャーを含めて様々な表現作品から東北のイメージを探り、東日本大震災を経験した現在において作られつつある価値観を考えていく。参加者には、自分の経験や知識をふまえた、積極的な意見表明を期待する。	
市民と政治	政治はわれわれの社会生活を左右する。誰も政治から逃げられない。だから誰もが政治のしくみを理解し、その正しい方向性について考えるべきである。本講義では、政治のしくみと政治的な考え方について、そして現代日本における論点について、具体的に、根本から考える。		

教養教育科目	産業社会と心理学	この授業では、知覚、認知、注意、態度、適性など、主に認知心理学、産業心理学、交通心理学、社会心理学のトピックスを取りあげながら、産業事故の背景にある人間側の要因を理解していく。また、産業社会の安全を維持するための心理学アプローチについて考察する。さらに、人間行動の基礎を理解するために、簡便な心理実験を複数回実施する。自ら実験材料を作成し実験を実施するなど、能動的な体験学習を通して、人間行動の原理についての発見学習を促していく。またグループ作業による共同でのデータ整理と分析を通して、課題探求の意識を深めていく。	
	産業社会と倫理	産業、工学が社会および地球環境に及ぼす効果、価値に関する理解や責任など、それらに関わる者として社会に対する責任を自覚する能力を身につける。産業や工学の究極目的が人類の福祉の実現であること、また産業に携わる者や技術者の倫理観の欠如が、福祉とは逆に、社会および地球環境にとって大きな問題を生ぜしめている現状を理解する。ついで具体的な事例における倫理的な価値判断の方法を学ぶ。	
	情報社会の経済	構造改革、累積する国債、少子・高齢化と年金といった問題が山積している日本経済は、この先、安定的な成長路線に復帰できるのだろうか。この講義では、戦後の復興期、高度成長期から平成の「失われた20年」までを振り返りながら、第10回までは日本経済、それ以降は日本企業の全体像を解説し、金融・財政の仕組みにも言及しながら、今日の我々をとりまく経済の諸問題について考察する。	
	日本国憲法	いま憲法をめぐる議論は極めて重要な政治的論点になっている。憲法の基本と役割を知ることはますます必要である。本講義では、憲法とは何か、その機能は何かについて、具体的に、根本から考える。	
	現代の哲学	17世紀から19世紀にかけての市民革命をめぐる言説を学ぶことで「国家とは何か」「社会とは何か」について問う姿勢を養う。	
	ライフ・キャリアデザイン論Ⅰ	今から自分の人生を描いてみることは、未来から自分を見つめることなので学生時代にやるべき事、やりたい事が見えてくる。学生時代の充実はこの進路決める礎になり、社会に出てからのキャリアに反映してくる。そこで本講義では、キャリアデザインとは何か？なぜキャリアデザインが必要なのか？について考えていく。そのための必要な知識とスキルを学ぶことが本講義の重点事項である。	
	ライフ・キャリアデザイン論Ⅱ	本講義は、キャリアデザインとは？何故キャリアデザインか？について、キャリアデザイン論Ⅰで学んだことをさらに発展させ、より実践的な方法論を展開する。変化の激しい今の社会においては、自らの人生を自分自身で切り開いていく事が重要となってきている。学生時代も就職してからも、将来の働き方、生き方を自分でデザインして、必要によっては修正して、場合によっては再設計、再々設計していくことも必要となる。そのための方法論について学ぶ。	
	職業指導（工業）	現代社会の工業技術の変化は日進月歩で著しいものがあり、創造的な能力と適性が以前よりも増して強く求められている。一方で、旧き技術を大切にしながら、新たな工業技術の創造に努める工業社会の歴史と適性の概念の変遷を学ぶことも重要であり、職業観の形成、職業技能の習得過程、職業適性の諸理論の理解を通して、モノ作りを支える人たちのキャリア形成の問題に触れる。さらに、工業高校でのキャリア教育の授業計画作成をグループワークで行うことを通して、教育実践の具体例を学んでいく。 オムニバス方式 (45 小川和久/9回) 職業観の形成、職業技能の習得過程、職業適性の諸理論の理解を通して、モノ作りを支える人たちのキャリア形成の問題について講義を行う。また、工業高校でのキャリア教育の授業計画作成のグループワークの指導を行う。 (46 中島夏子/6回) 高等学校におけるキャリア教育の理念や実践例を概観する。その上で、キャリア教育の授業設計の方法について講義を行なう。	オムニバス

教養教育科目	情報社会とモラル	本講義は高校教員免許状の取得をめざし、教職課程を履修している学生を対象とする講義である。情報社会において深刻化している法的ないし道徳的問題をどう解決すべきかについては、なお模索が続いている。本講義では、情報社会についての社会科学的概観を踏まえて、主にプライバシーと知的財産権という二つの重要トピックを、倫理的・法学的見地から講義する。また受講者による発表や討議を行い、双方向的な学習を目指す。	
	情報と職業	本講義は高校教員免許状の取得をめざし、教職課程を履修している学生を対象とする講義である。コンピュータ（電子）とコミュニケーション（通信）の発達は、インターネットを誕生させ情報は瞬時に国境を越え世界中の人々に伝わり処理される。人と人、人と物、物と物とはつながり、その関わり方は激変した。市場には多種多様なニーズが生まれ職業（仕事）の在り方も日々変化していく。その有り様を体験を踏まえて講義する。また受講者による調査や発表を取り入れ、討議を行う。	
	工業概論	本講義は、高等学校教員免許の取得を目指し、教職課程を履修している学生を対象とする講義である。高等学校において生徒に工業系科目の授業を提供するために必要となる、工業教育全体にかかわる機械、電気、情報、建築、化学の各分野のエッセンスを、演習や実習の要素を交えながら、幅広く講ずる。技術者としての倫理観や実践的な技術を修得させ、環境およびエネルギーに配慮しつつ、工業技術に関する諸問題を主体的・合理的に解決し、社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を養う。	
	フランスの文化と言葉	フランスの歴史・文化・社会について、日本との比較を通して理解を深める。同時に初歩的なフランス語文法、会話を学び、フランスという国についての理解をさらに深める。	
	ドイツの文化と言葉	ドイツの歴史・文化・社会について、日本との比較を通して理解を深める。同時に初歩的なドイツ語文法、会話を学び、ドイツという国についての理解をさらに深める。	
	韓国の文化と言葉	韓国の歴史・文化・社会について、日本との比較を通して理解を深める。同時に初歩的な韓国語文法、会話を学び、韓国という国についての理解をさらに深める。	
	中国の文化と言葉	中国の歴史・文化・社会について、日本との比較を通して理解を深める。同時に初歩的な中国語文法、会話を学び中国という国についての理解をさらに深める。	
	スタディスキルⅠ	工大で学び、社会に出るための準備として「日本語力」と「大学生活管理能力」を身に付ける。 そのために、以下の2つのことを学び、実践する。 Ⅰ 「正しく分かりやすい日本語表現」をするために必要な「文章添削・文章構成・敬語」の基礎を学ぶ。 Ⅱ 大学生活を記録・管理する。	
	スタディスキルⅡ	本講義では、「日本語力」と「大学生活管理能力」をさらに磨く。そのために、以下の2つのことを学び、実践する。 Ⅰ 新聞記事を材料に、語彙力・読解力・要旨作成力を高める。 Ⅱ 大学生活を記録・管理し、それをもとに「自己紹介書」を作成する。	

教養教育科目	プレゼンテーション	人間のコミュニケーション機能は本来自然に備わっているはずなのに、対人関係においてコミュニケーションを苦手とする人間は学生にも社会人にも非常に多い。本講義では多くの現代日本人が抱える、コミュニケーションへの苦手意識克服に理論的かつ適切な解を与えつつも、思考訓練と表現のツールである「図解」を用いて、将来ばかりか人生に必要とされるコミュニケーション、プレゼンテーション能力をグループワークも取り入れながら訓練、開発していく。	
	ビジネスマナー	自分自身を見つめ、社会性をもつ人間としての基本を学ぶ。また、仕事への取り組み方やより良い人間関係など、社会人として生きる上で大切な事を学習する。	
	英語 I A	speaking、listening、writing、reading の四分野に関わる総合的英語学習を行うが、特に、英文法の基本的事項に関する理解に基づいて情報の送受信を行うための基礎を学ぶ。取り上げる文法項目は、品詞、文の種類、五文型、時制である。	
	英語 I B	speaking、listening、writing、reading の四分野に関わる総合的英語学習を行うが、特に、英文法の基本的事項に関する理解に基づいて、長文読解のための基礎を学ぶ。取り上げる文法項目は、主語と動詞の一致、助動詞、前置詞、接続詞、比較である。	
	英語 II A	speaking、listening、writing、reading の四分野に関わる総合的英語学習を行うが、特に、英文法の基本的事項に関する理解に基づき、TOEIC の適語補充問題レベルの英文に対応するための基礎を学ぶ。取り上げる文法項目は、品詞、文型、時制、受動態、関係詞である。	
	英語 II B	speaking、listening、writing、reading の四分野に関わる総合的英語学習を行うが、特に、英文法の基本的事項に関する理解に基づいて、TOEIC レベルの長文に対応するための基礎を学ぶ。取り上げる文法項目は、分詞、不定詞、動名詞、仮定法である。	
	英会話 A	<p>The course covers a variety of topics which will give students the opportunities to learn and share information about themes relevant to students' daily lives, such as hobbies and interests, daily activities and important life events. In addition to the course textbook, the course is supplemented by a variety of interactive activities such as grammar, vocabulary and transcription exercises. These activities will help students to gain confidence in using the four skills of speaking, listening, reading and writing in English more spontaneously and creatively.</p> <p>(和訳) この授業では、趣味や関心事、毎日の活動や重要な日常の出来事など、学生たちに日常生活に関係するテーマについて学んだり、情報を共有したりする機会を与えらると思われるさまざまなトピックを扱う。テキストだけでなく、授業では文法や語彙、そして書き取り作業などのさまざまなインタラクティブな活動も行い補う。これらの活動により、学生たちは英語でのスピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの4技能をより自発的かつ創造的に用いることへの自信を得ると思われる。</p>	

教養教育科目	英会話B	<p>The course continues the general theme of the first semester, giving students the opportunities to learn and share information about themes relevant to students' daily lives, such as future plans, music and entertainment. The course will continue to see students develop their four skills of speaking, listening, reading and writing through the course textbook and also through a variety of interactive activities such as grammar, vocabulary and transcription exercises. These activities will help students to gain confidence in using English more spontaneously and creatively.</p> <p>(和訳) この授業では、前期のテーマを引き継ぎながら、さらに学生たちに将来の計画や音楽、そして娯楽などの日常生活に関するテーマについて学び、情報を共有する機会を与える。授業では、引き続き、テキストだけでなく文法や語彙、そして書き取り作業などのさまざまなインタラクティブな活動によって学生たちがスピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの4技能を発展させていくことを確認していく。これらの活動により、学生たちは英語をより自発的かつ創造的に用いることへの自信を得ると思われる。</p>	
	資格英語A	TOEIC対策用のテキストや参考書などを用いて、TOEICテストについての基本的な知識と、それへの対応能力を身につける。取り上げる文法項目は品詞、文型、時制、主語と動詞の一致、受動態、比較などの基本的事項や重要イディオムなどであり、400点を目標とした授業を行う。	
	資格英語B	TOEIC対策用のテキストや参考書などを用いた演習を通して、より複雑な構造の英文を一定時間で理解する力を身につける。取り扱う文法事項は、前置詞、接続詞、不定詞、動名詞、分詞、関係詞、仮定法などである。また、重要イディオムや語彙問題の演習を通して、スコアアップに結び付く実践力を向上させる。450～500点を目標とした授業内容である。	
	健康・運動科学実習 I	健康・運動科学実習 I では、健康の維持増進や豊かな社会生活を送るための手段として身体活動を捉え、且つ実践していく能力である身体リテラシーを向上させることを目的としている。各種目の理論・技術を習得していくと同時に、学生間のコミュニケーションの活性化を図り、本授業をきっかけとしてスポーツに親しむ態度を育成する。また、体力測定や体組成測定から、自身の健康課題とその対策について検討する。	
	健康・運動科学実習 II	健康・運動科学実習 II では、健康の維持増進や豊かな社会生活を送るための手段として身体活動を捉え、且つ実践していく能力である身体リテラシーを向上させることを目的としている。各種目の理論・技術を習得していくと同時に、学生間のコミュニケーションの活性化を図り、本授業をきっかけとしてスポーツに親しむ態度を育成する。また、生活習慣診断検査等を通じて、自身の健康課題を明らかにするとともに健康管理の方法を習得する。	
	スポーツ科学実習	スポーツ科学実習では、生涯スポーツとしてのスポーツ種目を実践することで、スポーツの親しみ方や楽しみ方を学習し、将来の豊かなスポーツライフへの導入を図る。各種目の身体運動イメージの習得、生涯スポーツ活動に必要な基礎的スキルの習得により、将来における心身の健康の保持増進に役立てることを目的とする。また、スポーツの実践を通して人間関係を構築していく際に重要なコミュニケーション能力を育成する。	

教養教育科目	特別課外活動Ⅰ	大学における勉学は開講されている科目を履修する事だけではない。芸術活動、クラブ活動、セミナー参加、インターンシップ参加などにより、文化・社会的活動を通して協調性やコミュニケーション能力を向上させ、人間形成を行う事が重要である。これを奨励するため、本学在籍期間中になされた、自主的・能動的な活動のうち、本学の教育目標に相応しいと認められる特別な課外活動を対象に、審査のうえ、教養教育科目として単位認定を行うものである。例えば、体育、文化および芸術活動における顕著な業績をもつ活動、社会的に顕著な貢献の認められる活動などがあるが、詳細は別途定めるものとする。	
	特別課外活動Ⅱ	「特別課外活動Ⅰ」と同様、学生による自主的・能動的な活動のうち、本学の教育目標に相応しいと認められる特別な課外活動を対象に、審査のうえ、教養教育科目として単位認定を行う。	
	特別課外活動Ⅲ	「特別課外活動Ⅰ」および「特別課外活動Ⅱ」と同様、学生による自主的・能動的な活動のうち、本学の教育目標に相応しいと認められる特別な課外活動を対象に、審査のうえ、教養教育科目として単位認定を行う。	
	特別課外活動Ⅳ	「特別課外活動Ⅰ」「特別課外活動Ⅱ」および「特別課外活動Ⅲ」と同様、学生による自主的・能動的な活動のうち、本学の教育目標に相応しいと認められる特別な課外活動を対象に、審査のうえ、教養教育科目として単位認定を行う。	
	他大学等教養科目群	本学は「学都仙台単位互換ネットワーク」に参加しており、本学学生は「特別聴講学生」として、ネットワークに参加している他大学の開講科目を履修することができ、修得した単位は、所定の単位数まで、本学で履修した単位として認定することができる。	

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の場合、収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

授 業 科 目 の 概 要			
（ 建築学部 建築学科 ）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	建築学の数学	建築学科専門科目の履修に必要な数学の基礎に関する講義であり、予備知識を前提とせずに初歩から行う。講義は次のように進めていく。基本となる数と式、因数分解、分数式及び無理数の計算を説明し、関数（1次関数、2次関数、指数関数及び対数関数）とグラフ、そして不等式と領域について講義する。更に三角関数の概念や計算法、ベクトル及び内積を含めたベクトル計算、行列と逆行列の考え方と計算、関数の極限について講義を行い、最後に微分概念及び計算について説明し、不定積分と定積分の概念及び計算法について講義する。毎回小テストを課し、講義内容の理解を深める。	
	建築学の物理	建築学科の専門科目の履修に必要な物理学、特に力学に関する講義である。以下のような3部分に分かれている。まずは、剛体の力学であり、力及びモーメントのつり合い、等速運動及び等加速度運動、外力や摩擦抵抗を伴う運動に関して講義する。次にはエネルギーに関するものであり、仕事、仕事の原理、運動・位置エネルギー及び保存則に関して講義を行う。最後には、波に関するものであり、波の進み方、波のエネルギー及び反射など、更に音波についても講義をする。毎回小テストを課し、講義内容の理解を深める。	
	建築入門	<p>大学で学ぶためのスタディスキルや、建築学の全体像について理解を深める。グループ講義と実習を織り交ぜる。建築学への興味・関心を高めるための導入教育である。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（12 不破正仁／5回）ワークショップ作業と発表の実施、図書館の役割と活用方法の講義</p> <p>（1 石井敏／3回）大学で学ぶことの意義、及び建築計画の入門講義（心理と空間の理解）</p> <p>（5 渡邊浩文／2回）大学で学ぶためのスタディスキル、及び建築設備環境の入門講義（建築設備の見学と理解）</p> <p>（11 新井信幸／1回）建築表現の入門講義（場所の魅力の伝達方法）</p> <p>（8 竹内泰／1回）建築設計の入門講義（図面の理解と作図）</p> <p>（3 有川智／1回）建築材料の入門講義（景観と材料）</p> <p>（7 船木尚己／1回）構造設計の入門講義（簡易な加力実験を通しての理解）</p> <p>（6 堀則男／1回）建築構造の入門講義（模型の作成と载荷実験による理解）</p>	オムニバス方式
	建築表現	建築設計においては、建築空間を構想し、設計図を作成し、魅力的なプレゼンテーションを行う一連のプロセスがある。本演習は、特に、建築設計における初期段階及び最終段階に必要な諸表現技術について学ぶ。建築を表現するためには手描きスケッチからデジタル表現まで様々な方法があり、その表現方法の広がりと同様を理解することも、各表現方法のうちいくつかについて、実際に取り組むことで具体的な技術を体得する。「建築設計Ⅰ」と関連させ、以後の設計演習にも活用できる基礎的内容とする。	共同
	建築設計Ⅰ	建築設計を学び始めるための最も基礎的な技術を学ぶ。具体的には建築図面の手描きトレース及び建築模型の作成などの演習を通して基礎技術を習得する。自ら建築を構想し設計するために必要な諸技術（製図・模型製作に必要な用具類、図面の読み方、線の使い分けとその意味、手描き図面の描き方や描く際の注意事項、図面の表現方法、建築模型の作り方など）を段階的に解説する。これらの作業を通して、二次元図面と三次元空間の関係を体得できることを到達目標とする。	
	建築材料Ⅰ	建築物は多種多様な材料によって構成されている。質の高い建築をつくるためには、建築物全体そして空間構成部位に求められる性能・機能に対して、建築材料の特性を的確に理解した上で、それらを適切に組み合わせることが必要である。建築材料Ⅰでは、建築物に作用する様々な荷重・外力を直接負担することになる「構造材料」のうち、「コンクリート」と「鉄鋼」を中心に、それぞれの材料の製造法、基本的物性、力学的特性、建築物における利用例などについて学ぶ。	

専門教育科目	建築概論	<p>建築学の特徴と以降の講義や設計演習において必要となる建築学の基礎的な知識と技術の修得を目指す。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(8 竹内泰/4回) 設計プロセス、設計図書の果たす役割やコミュニケーションの重要性、各専門分野の統合としての建築設計の特徴を講義</p> <p>(16 曹森/7回) さまざまな構造形式を部材の構成や接合形式による構造システムとして捉え、建築の主体構造とその安全性について体系的に講義</p> <p>(14 大石洋之/2回) 自然環境要素及び快適な環境創出のための建築設備の重要性、さらには地球環境の視点からのエネルギーと建築の関係性について講義</p> <p>(3 有川智/1回) 建物の生産プロセスについて理解し、長期的に適切に使い続けるための維持管理の重要性やそのための技術について講義</p> <p>(12 不破正仁/1回) 建物を単体として捉えるのではなく、地域的・都市的な広がりのある視点から捉え、地域特性を意識したまちづくりや都市計画の重要性を講義</p>	オムニバス方式
	建築環境工学概論	<p>快適でかつ省エネルギー・低炭素が求められている現代社会背景から建築を読み解き、2年次以降に開講される専門必修科目(「熱・空気環境」、「音・光環境」、「建築設備システム及び同演習」)における基礎的用語とその概念を学ぶ。その上で、今後目指すべきゼロ・エネルギー・ビル、ゼロ・エネルギー・ハウスを事例に、建築環境工学的視点すなわち熱・空気・音・光・設備の各視点から事例を概観することにより、建築環境工学の基礎と実用を学ぶ。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(5 渡邊浩文/5回) 建築伝熱、屋内空気質等の主として熱・空気環境に関わる講義回を担当</p> <p>(14 大石洋之/5回) 建築音響、日照・日射と照明等の主として音・光環境に関わる講義回を担当</p> <p>(9 許雷/5回) 機械設備・電気設備等の主として建築設備システムに関わる講義回を担当</p>	オムニバス方式
	建築CAD	<p>建築分野におけるデジタル技術の概要を知るとともに、情報処理の基本的概念や情報倫理等を実践的に学ぶ。主に、二次元の建築CADソフトを使用しながらその操作法を習熟する。普段から接することのできる具体的な建築物を共通の事例課題とする。事例課題における意匠、構造、設備など各分野の基本的な二次元設計図をトレースすることから始め、設計図の基本的な描き方を理解する。建築物における各分野の関わり、建築物を構成するために必要な図面内容についても理解する目的がある。最終的には自ら必要な設計図を描くことができるようになることを到達目標とする。各設計演習と連動する基本的な演習として位置づける。</p>	
	建築計画 I	<p>建築を取り巻く人間とその生活、地域社会(主に仙台)、環境などとの関わりを把握し、建築・設計を支えるさまざまな要素についての理解を深め、住宅を中心に建築設計・計画の基礎的な知識を学ぶ。具体的には、住宅の近代化、居住の多様化、建築家の住宅作品、建築計画と都市・環境問題及び住宅政策の関係、空家活用等を題材にし、戦後の居住ニーズと住まい空間の変容の関係を理解しながら、現代、将来に求められる居住空間を創造する力を養う。</p>	
	ヨーロッパ建築史	<p>「建築」や「建築家」という概念をうみだしたヨーロッパを題材として、長い歴史がつくりあげた文化・芸術としての建築を理解する素養を身に付ける。はじめに美術・建築における様式の考え方を概観したうえで、各回ではその具体的な流れを古代(ギリシア・ローマ)、中世(初期キリスト教建築・ロマネスク・ゴシック)、近世(ルネサンス・マニエリスム・バロック・リバイバル建築)と時代を追って講義する。各時代・各地域を代表する建築物の意匠や構造、材料の実例に即して解説を進めていくことで、技術者としての建築読解力を養っていく。さらに、その建築がつくりだされた背景として、風土、社会、思想、技術革新などのトピックスも織り交ぜ、建築を多角的かつ総合的に評価・分析する方法を学習する。</p>	

専門 教育 科目	建築造形	建築設計においては、身体的スケールの把握が最も重要な要素の一つであり、優れた建築には必ずこの身体的スケールが反映されている。本演習ではこのスケールを体得し、建築空間と関連づけられることが到達目標である。具体的には、基本的な単位の理解、基本的図形の形態的な特徴の理解から、それら図形を組み合わせた配列・レイアウトを理解すること、組織化された形態の工作体験、さらには、それら図形を立体造形的表現にまで展開させることで、段階的な理解と体得が可能なものとする。デジタルデータ・デジタル材料加工機器による諸技術を理解し、表現の幅を広げる。「建築設計Ⅱ」と関連させ、以後の設計演習にも活用できる内容とする。	共同
	建築設計Ⅱ	建築設計における基礎技術を習得したうえで取り組む設計演習である。自ら空間を構想し、図面や模型で表現することで、建築空間における発想力や想像力の萌芽を促す。課題は、2段階構成とし、前半においては与えられた単位空間をもとに、その内部空間や外部空間の設計を行い、身体感覚を生かしつつ建築の形態について考え表現する課題とする。後半では、単純な機能を持つ小空間の設計から、機能と空間の関係について考え表現できることを目指す。空間体験を伴った身体的スケールの空間設計とその図面表現を習得する。並行して開講される「建築計画Ⅰ（講義）」とも連動した内容とする。	
	建築材料Ⅱ	建築物は多種多様な材料によって構成されている。質の高い建築をつくるためには、建築物全体そして空間構成部位に求められる性能・機能に対して、建築材料の特性を的確に理解した上で、それらを適切に組み合わせることが必要である。「建築材料Ⅱ」では、建築物の骨組みを構成する「木材・木質材料」、内装や外装などを構成する「仕上材料」、「機能性材料」に焦点を当て、各部位に用いられる代表的な材料の特性を理解するとともに、材料と建築空間との係わり、さらには資源・環境との係わりなどについて学ぶ。	
	骨組の力学Ⅰ	建築物は、風や地震などの外力を受けた際にも、人的及び物的被害が生じないよう十分な安全性を確保することが求められる。本講義では、外力が建築骨組の各部におよぼす影響について理解し、安全・安心な建物を設計するために必要となる力学的な基礎知識の修得を目指す。具体的には、力のつり合い条件に基づいた梁、静定ラーメン、及び静定トラス構造の反力と応力の基本的な知識を学ぶ。また、骨組の安定・不安定、部材の断面の性質について解説する。	
	骨組の力学Ⅰ演習	建築物は、風や地震などの外力を受けた際にも、人的及び物的被害が生じないよう十分な安全性を確保することが求められる。本講義では、「骨組の力学Ⅰ」同様、外力が建築骨組の各部におよぼす影響について理解し、安全・安心な建物を設計するために必要となる力学的な基礎知識の修得を目指す。具体的には、「骨組の力学Ⅰ」で対象とした演習問題を繰り返し解くことにより、理論をより深く理解すること、また、授業で学んだ解法を各種構造に応用できる能力を身に付けることを目標とする。	
	ランドスケープデザイン	建築環境（ランドスケープ）を形成する諸要素を表現する手法を理解する。身体的スケールから都市や地域スケールまでを設定し、建築を形成する空間的要素の捉え方や調査方法、記述表記方法からそれら諸要素を総合的に表現する手法について体得する。たとえば、住宅（建物）のエクステリア・室内のアトリウム・屋上緑化などの検討に加え、敷地から町に広がる周辺環境の考察へと繋がる見識の習得を目指す。なお、同時期に開講される「建築設計Ⅲ」と関連させ、以後の設計演習に活用できる内容とする。	共同
	建築設計Ⅲ	人間にとって欠くことのできない空間として居住空間がある。本演習では単体の居住空間（住宅など）や集合的な居住空間（寮施設や集合住宅など）を課題とし、住まいの空間構成、複数の住まいが集合する際の集合原理やその空間構成について実践的に学ぶ。演習を通して基本的な設計プロセスを学ぶ。課題分析から、資料収集、構想の具体化、設計図作成、プレゼンテーションまでの一連の作業を体得する。並行して開講される「建築計画Ⅱ（講義）」、「インテリアデザイン（講義）」や「ランドスケープデザイン（演習）」とも関連させ、建築と建築内外の空間を連続的に発想できること、それらを設計図面として表現できることを目標とする。	

専門教育科目	建築計画Ⅱ	「建築計画Ⅰ」で学んだ内容をベースに、建築空間を人々の日常生活との関係で見えていく。特に本講義では、現代日本の地域的な住居の特質とその変容を追いながら、地域に根差した集合体としての住生活の見方、住要求のとらえ方、その建築化などについて講義する。具体的には、同潤会アパート、晴海高層アパート、広島基町高層住宅、タウンハウス、街区型集合住宅、コーポラティブハウス等、戦前からの集合住宅計画と居住ニーズの変容の関係を理解しながら、現代、将来に求められる集住空間を創造する力を養う。	
	日本建築史	わが国が培ってきた伝統建築の世界を学ぶことで、歴史文化に配慮した建築技術者としての能力を身に付ける。講義では、先史・古代から中世、近世にいたる日本建築の歴史について時代を追って解説する。取り上げるジャンルを寺院、神社、宮殿、町家、農家、城郭、茶室、和風住宅など幅広く設定することで、日本の伝統建築の特色である多彩な様式美を学ぶ。加えて、代表的な歴史的建造物の意匠や構造、材料、施工法、ディテールなどの技術的実例を豊富に提示することで、建築技術者として必要な木造建築の知識についても理解を深めていく。現在に継承されている伝統素材や職人技法に関するトピックスも織り交ぜ、木造建築の設計や歴史的建造物の保存修復にも役立つ内容とする。	
	建築材料実験Ⅰ	「建築材料Ⅰ・Ⅱ」で学んだコンクリート、鋼材、木材を対象として、これら構造材料に求められている「安全性に係わる性質（強度・弾性性状等）」について、所定の材料試験を実際に行いながら、変形や破壊の挙動などを含めた基礎物性について経験的に学ぶ。コンクリートについては、調合設計から練混ぜ、試験体の製作といった一連の工程を通じて、ものをつくり、それを評価することを体験する。また、実験で得られたデータをもとにして、外力に対する性状を把握するための様々な項目について、計算演習を行いながら、実践的に学ぶ。	共同
	熱・空気環境	良き建築空間を形成するためには、地域の自然環境を理解し、利用または制御して、安全で快適そして省エネルギーな生活空間を形成するための専門知識と技術が必要である。本講義は、1年次に開講される「建築環境工学概論」を踏まえ、建築における熱・空気環境の形成に関わる課題を取り上げ、その解決方法・建築への具体化等の基礎理論及び応用技術について学ぶ。また講義各回で予復習のための演習課題を課す。建築屋内空間に影響する東北地方の地域気候情報等に基づく各種調査や計算演習等に主体的に取り組むことにより、熱・空気環境にかかわる基礎理論と応用技術について理解を深める。	
	骨組の力学Ⅱ	「骨組の力学Ⅰ」で学習した応力図（軸力図、せん断力図、モーメント図）に基づき、微小断面上の応力いわゆる応力度の求め方、変形計算及び応力法による不静定構造物の解析法の基礎に関する講義である。断面の図心、断面1次及び2次モーメントの計算をベースに、断面上に分布する垂直応力度や、縁応力度及びせん断応力度の概念及び計算法、そして、特に梁及び簡単な骨組構造の変形や変形角を計算するためのモーメントの定理及び積分法、更に、不静定構造物のための応力法及びその計算法などについて講義する。	
	骨組の力学Ⅱ演習	「骨組の力学Ⅱ」の講義と対になっており、講義で学んだ知識の理解を深めるための演習である。図心、断面1次・2次モーメント、せん断応力度、縁応力度を含めたモーメントによる垂直応力度、梁及び骨組構造の部材の変形、そして、不静定力学のための応力法などの授業に対応して、数多くの演習問題を繰り返し解くことにより講義内容をより深く理解する。演習問題を通して、講義で学んだ内容を応用することができるようになり、一級及び二級建築士の試験に出てくる関係部分の問題を解く能力を身につけられるようになることを目標とする。	
	インテリアデザイン	インテリアデザインは、建築の内部空間を生活する人間の視点から発想し造形する行為である。また、時代ごとの住まい方や考え方を最も端的に表現する行為でもある。そのため、これまでのインテリアの歴史や地域性、人間の心理や行動といったソフトの側面だけでなく、身体的スケールでの空間、形態、素材などハードの側面まで広範な知識が求められる。本講義ではこれらの知識を体系的に学び、事例を通して体系の理解を深める。さらには、得られた知識を統合させ、関係づけながら小空間を提案することまでを行う。並行して開講される「建築設計Ⅲ（演習）」や「ランドスケープデザイン（演習）」とともに受講することでデザインの発想力や展開力が獲得できる内容とする。	

専門教育科目	建築設計Ⅳ	人間の生活に関わりの深い基本的な諸施設及び小規模交流施設等の設計演習を通し、建築と社会の関係や広がりについて考察し、建築設計に反映させることを目標とする。また、機能的な建築と周辺環境とのよりよい関係形成、公共的建築空間が生みだす地域の連続性について気づき、発想できること、さらには法規等による基本的な規定を反映させ安全性を確保した建築物を設計し、図面として表現できることを目標とする。並行して開講される「建築計画Ⅲ」や「建築法規」とも連動させた課題内容とする。	
	建築計画Ⅲ	各種の施設計画（建築計画）を扱う。講義では主に図書館、展示施設、医療施設、事務所建築、劇場ホール等の地域施設を取り上げ、それら建築の特徴と計画上の課題を解説する。仙台・宮城・東北地方ほか、国内外の多くの実例を通し、各施設を取り巻く社会的・文化的な背景、各施設を支える制度、及び各施設における具体的な生活やプログラムを解説しながら進める。現在の施設のあり方を理解した上で、今後の施設、またわれわれの地域・生活環境のあり方についても考えられるように意識付けを行う。	
	建築材料実験Ⅱ	「建築材料Ⅱ」で学んだ各種ボード類を対象として、建築仕上に求められている「曲げ強度」「耐水性」「難燃性」「耐衝撃性」について、所定の材料試験を実際に行いながら、基礎的な試験方法及各種物性について経験的に学ぶ。主に住宅の仕上材料あるいは下地材料として用いられている合板や石膏ボードなどのボード類を対象として、荷重・外力だけではなく水や火といった作用因子に対する試験を行い、それらのデータのまとめ方や計算演習を通して、各性質のとらえ方や解釈の仕方を実践的に学ぶ。	共同
	音・光環境	良き建築空間を形成するためには、地域の自然環境を理解し、利用または制御して、安全で快適そして省エネルギーな生活空間を形成するための専門知識と技術が必要である。本講義は、1年次に開講される「建築環境工学概論」を踏まえ、建築における音・光環境の形成に関わる課題を取り上げ、その解決方法・建築への具体化等の基礎理論及び応用技術について学ぶ。また講義各回で予復習のための演習課題を課す。建築屋内空間に影響する東北地方の地域気候情報等に基づく各種調査や計算演習等に主体的に取り組むことにより、音・光環境にかかわる基礎理論と応用技術について理解を深める。	
	建築法規及び同演習	建築物の設計において不可欠である法規についての講義と演習である。主に、建築基準法、建築士法を扱うが、関連する諸法についても触れる。自らが構想する建築を具体的に設計するにあたって、必ず守るべき最低限のルールについて理解できることを目指す。講義においては、より深い理解が得られることを目指し、諸法規の成立から変遷過程なども織り込みながら、また具体的な適用事例とも照らし合わせ、社会における実態とも関連づけながら丁寧に解説する。演習では演習問題に取り組むことを通してその理解を深め、実践的な力をつけることを目指す。	講義：22.5時間 演習：22.5時間
	木質構造	木質構造の材料特性、構造計算法・設計法及び耐震診断法を学ぶ授業。構造実験や設計事例の紹介を通じて、自然素材として異方性、耐久性、耐火性など特有の性質及びその性質を生かした建築物の表現方法と諸性能について解説する。部材から接合部、耐力壁、基礎までの計算法・設計法を学ぶとともに、木質構造の構造計画及び耐震性能、耐風性能について理解を深める。在来軸組構法、伝統的構法、枠組壁構法などに加え、近年木質構造の新たな進歩の背景となるCLT構法、木質ハイブリッド構法及び高層木造建築の事例を紹介しながら、木質構造の構造安全性に対する評価方法及び保全計画について講義を行う。この授業では、古くから使われている木質構造に対する多面的な思考力を育成し、時代に即した木質構造の設計に必要な知識を身に付けることを目的とする。	
	建築専門CADとBIM	現代において学ぶべき建築デジタル技術は、その目的や専門に応じて多様化しつつあり、社会的な要請も高まりつつある。それら多様化する専門CADの技術を学び、実践的に習熟することで表現の可能性を広げることを目標とする。特に建築設計用三次元のCADソフトを駆使した表現を可能とする内容とし、履修学生が進む専門分野に必要な専門CADによる平面図、立面図、断面図、透視図等の基本的な製図技能を身に付ける。更に、建築設計におけるBIM技術の活用方法を学ぶ。	集中講義

専門教育科目	骨組の力学Ⅲ	一般に構造物は静定ではなく不静定であり、力のつり合いのみでは反力や部材に作用する力などを求めることができないため、変形の条件も併せて考慮する必要がある。本講義では、不静定構造物を解くための代表的な手法である応力法、固定モーメント法について、その考え方と基本的な適用法を解説し、修得することを目標とする。授業計画の前半においては、これらの解法を理解・修得するための前段階として静定構造物の力学、及び座屈現象について解説し、特に構造物の変形に関する考え方と計算方法について、これまでの講義で学習した内容を補完する講義を行う。また、各解法の理解を定着させるため、演習問題に取り組む。	
	住宅生産	住宅生産・構法の概要を学ぶとともに、現在のわが国における住宅市場の動向や特徴等について理解を深める。住宅・建築生産のプロセスは、企画から設計、施工、維持保全そして解体といった一連のプロセスからなり、これらのプロセスは少子高齢化、ストック重視社会等を背景とした社会の変化と密接に関連する。本講義では、住宅生産と社会との関連、住宅に関する産業、組織、職能、マネジメントについて幅広く取り上げるとともに、ライフサイクルを考慮した住宅を「つくること」「つかうこと」について総合的に学ぶ。	
	鉄筋コンクリート構造	鉄筋コンクリート構造においては、構成要素であるコンクリートと鉄筋のそれぞれの材料特性を把握し、複合構造とした場合の力学的特性、及び構造設計の考え方と方法を理解する必要がある。これらの理解に基づき、鉄筋コンクリート建物の構造計算の基礎を修得することを目標とする。授業計画としては、コンクリートと鉄筋の材料特性、鉄筋コンクリート構造とした場合の作用応力（軸方向力、せん断力、曲げモーメント）と部材（柱、梁、耐震壁、基礎、柱梁接合部、床スラブ）ごとの力学的特性・構造設計規定、主に1次設計を対象とした構造計算の方法などについて講義する。また、計算方法の理解を深め、具体的な寸法や強度についての感覚を身に付けるため、演習課題に取り組む。	
	鉄筋コンクリート構造演習	「鉄筋コンクリート構造」の講義では、構成要素の材料特性、複合構造とした場合の力学的特性、及び構造設計の考え方と方法の理解に基づき、鉄筋コンクリート建物の構造計算の基礎を修得することを目標としている。演習科目であるこの科目では、「鉄筋コンクリート構造」の講義内容の概要を復習し、計算、設計、作図などの演習課題に取り組むことによって、具体的な寸法や常識的な断面設計についての感覚を身に付ける授業を行う。	
	鉄骨構造	鉄骨構造の計算法及び設計法に関する講義である。圧縮を受ける部材の座屈を考えるとときの細長比による許容圧縮応力度の計算、曲げを受ける部材の横座屈を考えるとときの許容曲げ応力度の計算法について説明し、せん断応力度や支圧応力度に関して講義を行う。梁や柱が軸力と曲げを同時に受けるときの設計法について講義する。更に鉄骨部材の接合について紹介し、特に溶接やボルト・リベットの接合の特徴、計算法及び設計法について解説する。最後は話題になっている鉄骨構造の実例を紹介し、その特徴に関して解説する。	
	鉄骨構造演習	「鉄骨構造」の講義と対になっていて、講義で学んだ知識の理解を深めるための演習である。圧縮材の座屈応力の計算、許容圧縮応力度及び許容曲げ応力度と細長比（幅厚比）曲線の算定、圧縮材、大梁及び柱の設計などに対応する数多くの演習問題を実際に解くことで、計算及び設計法を身に付ける。異なる溶接方法による接合応力度の計算、ボルト・リベットの接合強さの計算及び設計などについても演習問題を課し、定められた時間内に結果を提出させる。一級建築士と同レベル演習問題を解きながら設計に取り組む能力を身に付ける。	

専門 教育 科目	建築設備システム及び同演習	建築物を機能させ、高度な技術で快適な住生活・仕事などを支える建築設備システムは機械・配管配線・器具などで構成されている。本講義は、建築の設計・施工に際して必要な建築設備システムの基礎的な知識を学び、設備計画方法についても論じる。講義では、建築設備システム（給排水設備・ガス設備・空調設備・電気設備）の基礎的な概念・用語・システム構成、そして設備計画・設計に必要な計算方法を学ぶ。演習では、計算や課題を通して、建築設備計画、給排水・空調・電気設備設計の基礎知識と応用技術への理解を深める。	講義：22.5時間 演習：22.5時間
	建築プロフェッショナル論	広い領域を包含するプロフェッショナルな建築の仕事の領域とその実際、建築学で学んだ知識や技術を活かすことができる将来の活躍の場の理解を通して、建築学の魅力を再確認し、自身の進路検討につなげ就業意欲の醸成を図る。建築各界の第一線で活躍する本学科卒業の建築技術者をゲストスピーカーに迎えての講義も交えて、建築技術者として必要な技術や知識を理解することを目指す。 (オムニバス方式/全15回) (1 石井敏/8回) 建築技術者倫理、建築実務における企画と意匠設計、営業と交渉、建築コストとその管理、建築実務におけるチームワーク、プレゼンテーションやコミュニケーションの技術、建築の職人技術とその伝承などを担当。 (7 船木尚己/7回) 建築における研究、技術開発、施工管理、地域貢献と技術者育成、構造設計や設備設計と技術などを担当。	オムニバス方式
	都市計画	都市の歴史とその社会背景について概説し、「都市計画」成立の過程を学ぶ。その上で、現在の都市の構成要素、それらの計画手法について各種・各地の事例を参照しながら考察を進める。事例参照の際は、世界及び日本の各地域の事例と仙台・宮城・東北の事例とを対照させつつ、これからの地域づくりに応用可能な計画手法について論述する。都市計画に関する基本的な理念と方法・手法を理解し、都市とは、都市化とは、都市問題とは何かなどの基礎的な事項について計画的な視点から評価することができる力を養う。また、各地の事例の検討を通して、都市解析の手法と都市における建築設計の思考の基本を体得することを目指す。	
	建築設計V	豊かな社会生活を実現するために必要な諸施設、具体的には教育施設や地域文化施設などの設計演習を通し、社会が提供すべき公共的空間のありかた、その空間構成について考察し、建築設計に反映させることを目標とする。また、多様化する社会状況を反映し、単機能に留まらない複合的な機能構成を設計課題とすることで、建築と社会の新しい関係について計画・提案できることも目標とする。建築設計における計画力や表現力が習得できることを重視する。建築図面のプレゼンテーションにおいて、訴求力のある表現ができることを目指す。並行して開講される「建築計画IV」、「都市計画」とも連動した課題とする。	
	建築計画IV	各種の施設計画（建築計画）を扱う。講義では高齢者居住施設（老人ホームや高齢者住宅）と教育施設（小学校）の計画実例の解説を通して、建築計画的課題とそれを解決するための平面計画上の要点や、より質の高い施設計画につなげるための視点を修得する。各施設を取り巻く社会的・文化的・地域的背景、各施設を支える制度、及び各施設における具体的な生活やプログラムを解説しながら進める。仙台、宮城、東北地方にある多数の施設事例を通して、将来の地域デザインを地域施設のあり方から考えられるように意識付けを行う。	
	近代建築史	近現代の建築文化がいかに変化してきたかについて、映像資料によって、近代建築の成立を中心に、19世紀から21世紀の範囲で学ぶ。年代とキーワードから、近現代建築についての歴史的パースペクティブを得ることを目標とする。世界各国の社会状況の変化、美術の潮流との関連を参照しつつ、現代建築に至る歴史を理解し、建築設計への応用に必要となる建築史の基本的知識を習得する。19世紀の産業革命以降の建築（鉄・ガラス・コンクリート）、20世紀に入ってからの近代建築の黎明、誕生、成立そして展開の過程、さらには1940年代以降の近代から現代への移行の中での建築文化の潮流、ポストモダニズムからモダニズムへの回帰と最新の現代建築への展開等について学ぶ。	

専門 教育 科目	建築専門表現	自らが設計した建築を的確かつ魅力的にプレゼンテーションするためには、一般的な設計製図手法とは異なる独自の表現方法を身に付ける必要がある。具体的には一連の訴求力のある資料を総合的に取りまとめることができるよう、図面表現、レイアウト、編集作業などについて実践的な解説と演習を行う。受講者がそれら技術を習得し、よりレベルの高い専門的な建築表現が可能となることを目標とする。また、建築実務において応用できる内容とする。	集中講義
	建築経済	建築活動を経済的側面からとらえ、「建築コスト」及び「建設や維持保全行為（マネジメント）」に関する考え方、手法について学ぶ。建築生産プロセスにおける様々な経済行為に関する実務に基づいた講義を通して、入札・契約方式、工事費の構成、建築積算における数量算出やコスト算定の手法などを習得するとともに、建築におけるコストマネジメントやLCC（ライフサイクルコスト）、VE（バリューエンジニアリング）といった応用分野についても学ぶ。	
	建築学研修 I	「建築学研修Ⅲ」（卒業論文・卒業設計）に向けて必要な基礎学習をゼミナール形式で行い、「建築学研修Ⅱ」につなげる。基本的には、建築学に関する研修テーマを各自設定し、ゼミナールや文献調査等によりテーマの理解を深め、問題点を把握する。仙台、宮城、東北地方などの地域空間、地域社会など地域の課題を考えられるようになることを目指す。さらにその問題点や課題の解決方法を探り、仮説を立てて、仮説の実証のために調査、実験、または設計案作成を行う。この研修を通じて、自らの適性についても理解を深め、進路選択の一助となるようにする。ゼミナールの中では外部講師によるレクチャーやエスキス指導、見学会や講評会を行うこともある。	
	地域空間計画	これからの地域づくりに欠かすことのできない「地域資源の再評価」について各地域の事例を参照しながら、その解釈の方法を学ぶ。その上で、地域が伝統的に培ってきた歴史的環境・文化的空間及び地域空間を生かそうとする施策について理解を深める。地域とはなにか、その広がりや対象を理解し、それらの問題点を計画論としてどのように対処すべきかを説明できるようにする。また、その過程で、地域資源（ストック）の再評価を目的に、地域に現存する歴史的環境・文化的資源や制度によって作られる形の抽出を行い、価値の転換・共有をはかることを可能とする計画提案に結びつけられる力を養う。具体的には、東北・宮城・仙台など地元地域の空間構成への理解を深めるべく、地域づくり提案書・レポートの作成を行い、その過程の中で地域の歴史・文化的価値についての見方を習得できるようにすることを旨とする。	
	建築生産	建築は施工というプロセスを経て実現する。本講義では、建築工事の着工から竣工に至るまでの施工の概要と生産管理技術について学ぶ。建築工事は、各種専門工事の集合体でもある。建築物の躯体工事及び仕上工事に関する事項について、工事進捗にあわせた、工種別の専門的な基礎知識を解説するとともに、施工計画、施工管理、工程管理などについて学ぶ。講義内容は、建築士や建築施工管理技士などの資格試験科目（施工）に対応しているので、試験対策を意識した解説も行う。	
	建築基礎構造	建築物を支えるための地盤と基礎に関する講義である。地盤調査法、土の物性及び分類、コンシステンシー、粘土の排水及び土の圧縮性と圧密、そして土のせん断強さなど地盤に関する知識を紹介する。それを用いて浅い基礎（連続基礎、マット）及び深い基礎（杭）の特徴、設計法、耐力計算について講義して、群杭の効率について説明する。現場の基礎工事時の山留の計算、設計についても紹介し、擁壁の設計に必要なアクティブ及びパッシブ土圧について解説する。授業時に知識を深めるための演習問題を課して講義を進める。	

専門教育科目	都市環境	<p>現代では多くの人々が都市に住まい、都市で活動している。建築学の領域も建築そのものから建築外部空間や都市空間へと拡大している。本講義では、都市環境に関わる基礎的な事項を学ぶとともに、先端的な話題・課題・研究事例を見聞することにより、都市を構成する私達自身の、都市環境との関わり方について講義する。仙台をはじめとする各都市・地域の実態を踏まえて理解を深める。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(5 渡邊浩文/7回) 都市域を対象とするヒートアイランド、緑地効果と配置、都市環境気候図、都市環境行政、都市環境計測手法等の、主として都市域の気候環境に関する講義を担当する。 (9 許雷/6回) 都市のインフラストラクチャー、エネルギー供給システム、廃棄物処理と資源循環、環境管理等の、主として都市域のインフラストラクチャーに関する講義を担当する。 (14 大石洋之/2回) 景観法の施行により広がりを見せる景観まちづくりや景観計画の取り組み事例、景観評価といった都市の視環境形成に関する講義を担当する。</p>	オムニバス方式
	建築設計VI	<p>仙台における具体的な地区を対象とし、地区に必要な建築プログラムの抽出と、そのプログラムを具体化した建築提案までを行う。これら建築設計における初期プロセスを含む一連の作業を体験することで、調査力、構想力、企画力を習得することを目標とする。演習はグループワークと個別作業の2段階に分けて構成する。前半のグループワークでは主に対象地区の調査・分析から課題の抽出までを行う。後半の個別作業では、前半に得た成果をもとに建築プログラムを抽出し、具体的な建築デザインの提案まで行う。グループワークを取り入れることで、建築実務において必要とされるチームワークやチームマネジメントに関する能力の必要性についても学ぶ。</p>	
	耐震設計法	<p>本講義では、地震に対する建物の応答原理と、これまでに経験してきた震害の特徴と影響を把握し、現行耐震設計法の体系を理解することを目標とする。授業計画の前半では、主要な地震被害の特徴と耐震設計規定に与えた影響を解説しながら、現行の耐震設計法の体系と成立過程、建物構造別・規模別の設計手法の概要について講義する。また、中規模・大規模建築物に適用される設計規定について学ぶ。後半では、小規模木造建築物に適用される仕様規定の概要、物理学の振動論に基づいた建物の地震応答原理、超高層建築物と免震・制振建物について講義する。また、例題の建物を設定し、地震力、振動特性、耐震性能などを算出し、耐震設計手法を確認する演習課題を行う。</p>	
	建築学研修II	<p>「建築学研修I」での成果を踏まえて、さらにそれを深め、「建築学研修III」につなげるための取り組みとして位置づける。本研修をとおして、仙台、宮城、東北地方などの地域空間、地域社会など地域に潜在する課題を発見し、具体的な解決を図るための基礎的知見を得ることを目指す。「建築学研修III」(卒業論文・卒業設計)のために必要な学習をゼミナール形式で行う。「建築学研修I」で検討した課題テーマをさらに掘り下げ、具体的な研究テーマ(設計テーマ)として設定する。それらのテーマに対して定期的なゼミナール、文献調査等により、テーマの理解を深め、課題の把握と、仮説の設定、さらにはその実証のための調査手法・設計手法の具体について計画を立てる。実際に調査や計画・設計を進め、結果を報告書や小論文、または設計企画書などの形でまとめる。目的達成のため、学外での調査やフィールドワーク、外部講師によるレクチャーやエスキス指導、講評会を行うこともある。</p>	

専門 教育 科目	建築総論	<p>建築各分野の知識と技術を統合するための講義。各分野の知識と技術が相互に関連し合うことを再確認する。最先端の動向や最新の話題をテーマにしながら、建築が向かう方向性を確認し、建築を総合的に理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(1 石井敏/2回) 施設計画および総論まとめ (10 福屋粧子/1回) 建築デザイン (11 新井信幸/1回) 住まいと居場所のデザイン (13 中村琢巳/1回) 伝統建築の保存と継承 (4 薛松濤/1回) 地震に対する建築技術 (7 船木尚己/1回) 制震システム (6 堀/1回) 建築構造 (16 曹森/1回) 建築とICT活用 (12 不破正仁/1回) まちづくり (3 有川智/1回) 建築生産 (5 渡邊浩文/1回) 都市環境 (9 許雷/1回) 建築設備とBIM (14 大石洋之/1回) 環境心理生理と建築 (2 最知正芳/1回) 建築材料と施工</p>	オムニバス方式
	災害と建築	<p>地球環境や社会環境の変化とともに、人間は様々な災害と向き合って生活することが前提となりつつある。各種災害の諸相を理解し、災害による人的・物的被害や社会的影響を軽減するための建築の役割を多角的に学び習得する。災害後の復旧・復興、災害を意識したまちづくりや建築計画についても理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(11 新井信幸/3回) 震災復興と住まい (10 福屋粧子/2回) 震災復興とまちづくり (8 竹内泰/2回) 災害とコミュニティアーキテクト (3 有川智/2回) 住宅生産・復興 (9 許雷/1回) 建築火災と避難安全計画 (17 小関公明/1回) 災害時の心理と行動 (1 石井敏/1回) 各種災害と災害弱者 (5 渡邊浩文/1回) 災害とインフラ途絶 (7 船木尚己/1回) 建築物の耐震化 (6 堀則男/1回) 地震発生確率と被害想定</p>	オムニバス方式
	建築設計Ⅶ	<p>これまでの建築設計Ⅰ～Ⅵで習得された諸技能を統合させ表現する演習である。本演習では、共通に設定された課題のもと、複数の提案グループに分かれ、グループごとに教員指導を受けるスタジオ方式をとる。設定されたテーマに対しては、グループごとに多様な設計アプローチをとることを可能とする。中間及び最終段階において相互に成果を確認し、相互に評価を行う。設計アプローチとその成果の多様性について学ぶとともに、そこに現われる共通要素についても最終的に確認することで、課題が持つ本質的なテーマについて相互に学ぶことができる内容とする。4年後期の卒業研修（設計）にむけた演習として位置づけられる。</p>	
	建築構造の設計	<p>建築物が大規模・複雑化している現在、コンピュータを駆使した構造計算が一般化している。専用ソフトを用いての計算は効率的に行える一方で、技術者としての計算結果に対する判断力が経験として蓄積されにくい。本講義では、構造設計における計算過程や原理を理解するとともに、得られた結果に対して適切な判断ができる力を修得することを目指す。具体的には、小規模な鉄筋コンクリート造建築物を対象に、手計算により構成部材の断面算定を行う。また、計算結果に基づき、構造計算書、構造図面を作成する。</p>	
	建築性能論	<p>建築材料の講義や実験でこれまでに得た知識を基礎として、建築物に求められる性能とその構成要素としての材料性能との係わりについて学ぶとともに、材料を評価、選定するための材料設計手法の基礎を習得する。持続可能な社会が求められる現在、建築に求められる性能も変化してきている。建築物のライフサイクルとその社会・経済・環境的な側面の関係を理解した上で、建築行政や関連制度の動向のほか、材料の耐久性と建築物の寿命との関係などについても実例を通して学ぶ。また、東北・宮城地域における地域産材や地産地消の課題などについて考える。</p>	

専門教育科目	建築意匠	本講義では建築がもつ意匠の諸相やその背景概念、相互関係等について横断的かつ概観的に学ぶ。講義では建築における概念や要素をテーマとし、地域や時代にとらわれない建築意匠の多様性や共通性について、具体的な実例を通して読み解きながら学ぶ。受講者はこれまで「ヨーロッパ建築史」、「日本建築史」、「近代建築史」で得られた知識を統合し、自らの設計やデザインを自覚的に捉えなおし、さらなる建築設計におけるデザイン力強化を目指す。また、受講者は建築意匠の諸相について調査・発表することで、建築意匠について理解を深め、自らの建築意匠に照らし合わせて解説できることを目標とする。	
	建築学研修Ⅲ	建築学研修ⅠとⅡでの取り組みを踏まえて行う。最終的な研修（卒業設計・卒業論文）のテーマと取り組むべき課題を明確にし、それぞれが設定した課題解決のための仮説をたてて実験、調査、設計・制作を進める。自ら設定した研究や設計のテーマが、仙台、宮城、東北地方などの地域や社会にどのように還元され、意義や価値を持つものなのかを考えながら研修作業を進め、完成度の高い論文もしくは設計作品としてまとめる。成果については発表会にて全員がプレゼンテーションを行い、質疑と講評を受けるプロセスを経て最終的な成果物の提出を行う。一連の作業を通して、それまで学んできた建築学の専門知識と技術を統合する能力を養成することを最終目標とする。	
	建築インターンシップⅠ	在学中に実際の建設関連企業（建設会社、設計事務所等）での就業経験を持つことにより、職業観及び社会観を養うことを目的とする。進路選択にあたって自らの特性や個性、さらには適性を認識し、適切な業種や職種を見いだしていく作業は学内での講義・演習だけでは難しい。高度な水準での建築設計の現場を体験することで、学内では学びきれない建築と社会の関わりを学び、進路選択のための検討の機会とする。自らの職業観を確立させ、学んでいる学問の意義を十分理解し、自主性を備えた人材育成を目指す。実働計45時間以上を必要とする。	
	建築インターンシップⅡ	「建築インターンシップⅠ」同様、在学中に実際の建設関連企業（建設会社、設計事務所等）での就業経験を持つことにより、職業観及び社会観を養うことを目的とする。進路選択にあたって自らの特性や個性、さらには適性を認識し、適切な業種や職種を見いだしていく作業は学内での講義・演習だけでは難しい。高度な水準での建築設計の現場を体験することで、学内では学びきれない建築と社会の関わりを学び、進路選択のための検討の機会とする。自らの職業観を確立させ、学んでいる学問の意義を十分理解し、自主性を備えた人材育成を目指す。実働計45時間以上を必要とする。	
	建築インターンシップⅢ	「建築インターンシップⅠ」「建築インターンシップⅡ」同様、在学中に実際の建設関連企業（建設会社、設計事務所等）での就業経験を持つことにより、職業観及び社会観を養うことを目的とする。進路選択にあたって自らの特性や個性、さらには適性を認識し、適切な業種や職種を見いだしていく作業は学内での講義・演習だけでは難しい。高度な水準での建築設計の現場を体験することで、学内では学びきれない建築と社会の関わりを学び、進路選択のための検討の機会とする。自らの職業観を確立させ、学んでいる学問の意義を十分理解し、自主性を備えた人材育成を目指す。実働計90時間以上を必要とする。	
	建築インターンシップⅣ	「建築インターンシップⅠ」「建築インターンシップⅡ」「建築インターンシップⅢ」同様、在学中に実際の建設関連企業（建設会社、設計事務所等）での就業経験を持つことにより、職業観及び社会観を養うことを目的とする。進路選択にあたって自らの特性や個性、さらには適性を認識し、適切な業種や職種を見いだしていく作業は学内での講義・演習だけでは難しい。高度な水準での建築設計の現場を体験することで、学内では学びきれない建築と社会の関わりを学び、進路選択のための検討の機会とする。自らの職業観を確立させ、学んでいる学問の意義を十分理解し、自主性を備えた人材育成を目指す。実働計90時間以上を必要とする。	

専 門 教 育 科 目	建築学特別課外活動Ⅰ	<p>本学科の専門に関連の深い資格の取得（宅地建物取引士、インテリアプランナー、福祉住環境コーディネーターなど）、学外研修や学科が実施する課外活動への参加、学生の自主的かつ計画的な活動とその成果（留学、設計競技受賞など）に対して、本人の申請に基づいて、学科で審査の上、専門選択科目として単位を認めるものである。学科では学生の自主性と行動力を高め、企画力やコミュニケーション力、学ぶ意欲の醸成の観点からも学生自身による積極的な取り組みを推奨している。なお、教養教育科目としての「特別課外活動」との重複申請や、同一内容での複数回の申請は認められない。対象となる資格・課外活動の詳細や申請方法などについては、別途案内する。このⅠについては、実働計45時間以上の内容を必要とする。なお、ⅡおよびⅢと同一の内容での申請は認められない。</p>	
	建築学特別課外活動Ⅱ	<p>「建築学特別課外活動Ⅰ」同様、本学科の専門に関連の深い資格の取得（宅地建物取引士、インテリアプランナー、福祉住環境コーディネーターなど）、学外研修や学科が実施する課外活動への参加、学生の自主的かつ計画的な活動とその成果（留学、設計競技受賞など）に対して、本人の申請に基づいて、学科で審査の上、専門選択科目として単位を認めるものである。学科では学生の自主性と行動力を高め、企画力やコミュニケーション力、学ぶ意欲の醸成の観点からも学生自身による積極的な取り組みを推奨している。なお、教養教育科目としての「特別課外活動」との重複申請や、同一内容での複数回の申請は認められない。対象となる資格・課外活動の詳細や申請方法などについては、別途案内する。このⅡについては、実働計90時間以上の内容を必要とする。なお、ⅠおよびⅢと同一の内容での申請は認められない。</p>	
	建築学特別課外活動Ⅲ	<p>「建築学特別課外活動Ⅰ」「建築学特別課外活動Ⅱ」同様、本学科の専門に関連の深い資格の取得（宅地建物取引士、インテリアプランナー、福祉住環境コーディネーターなど）、学外研修や学科が実施する課外活動への参加、学生の自主的かつ計画的な活動とその成果（留学、設計競技受賞など）に対して、本人の申請に基づいて、学科で審査の上、専門選択科目として単位を認めるものである。学科では学生の自主性と行動力を高め、企画力やコミュニケーション力、学ぶ意欲の醸成の観点からも学生自身による積極的な取り組みを推奨している。なお、教養教育科目としての「特別課外活動」との重複申請や、同一内容での複数回の申請は認められない。対象となる資格・課外活動の詳細や申請方法などについては、別途案内する。このⅢについては、実働計90時間以上の内容を必要とする。なお、ⅠおよびⅡと同一の内容での申請は認められない。</p>	
	他学科開講科目群	<p>建築学に関わる学問的領域は広い。本学科の専門的な知識をよりよく、また深く理解するために、他学科の開講科目（建築学に関わるものに限る）を履修することができる機会を設けている。履修にあたっては、事前に履修科目について建築学科教務委員に相談の上、当該科目の担当教員の許可を得て、教務学生課で所定の手続きを行う。詳細については当該科目のシラバスを参照のこと。</p>	
	他大学開講科目群	<p>建築学に関わる学問的領域は広い。本学科の専門的な知識をよりよく、また深く理解するために、他大学の開講科目（建築学に関わるものに限る）を履修することができる機会を設けている。履修にあたっては、事前に履修科目について建築学科教務委員に相談の上、本学教務学生課及び受講先大学の担当課に確認の上、手続きを行う。</p>	

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校に収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書